

水産業のすがた

漁業の概況

本県は、面積でみれば全国43位ですが、海岸線の延長距離が約430kmと長く(全国27位)、黒潮の影響を受けるため、東京・横浜という大都市に近接しながらも相模湾や東京湾は多種多様な魚介類に恵まれています。

三崎漁港を基地として世界の海で主にまき網やえ縄でかつおやまぐろを漁獲する遠洋漁業、主に伊豆諸島周辺や四国沖などの海域ではえ縄や釣りにより、きんめだい、むつなどの底魚（そこうお）を漁獲する沖合漁業、定置網、釣、まき網、刺網など、様々な漁法で多種多様な魚分類を漁獲する沿岸漁業、さらに、わかめ、のりなどの海藻類を生産する海面養殖業が行われており、令和5年の海面漁業・養殖業の生産量は21,596t、生産額は149億円でした。

●**かながわ漁業の主要項目(令和5年)**

項目	単位	神奈川	全国	全国順位
漁業経営体数	経営体	819	65,662	27
漁業就業者数	人	1,449	121,389	27
漁船隻数	隻	1,397	109,283	28
海面漁業・養殖業生産量	t	21,596	3,777,920	31
海面漁業	t	20,905	2,926,411	24
海面養殖業	t	691	851,509	30
海面漁業・養殖業生産額	億円	149	15,241	27
海面漁業	億円	145	9,510	18
海面養殖業	億円	4	5,731	32

経営体数、就業者数及び漁船隻数は「2023年漁業センサス」、他は「海面漁業生産統計調査」、「漁業産出額」、水産課調べ

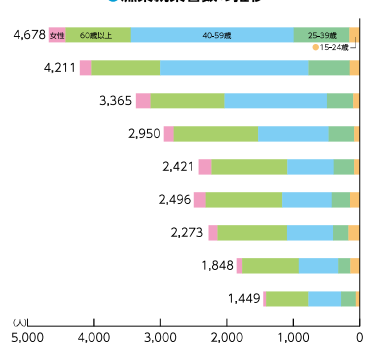
(注1) 表の数値値に内水面の値は含まれていない

(注2) 表示単位未満四捨五入のため、合計が合わないことがある。

(注3) 沖洲川の数値は、国立研究開発法人水産研究・教育機構及び水産技術センターの数値を除いてあるため、実際の年報の数値とは異なる。

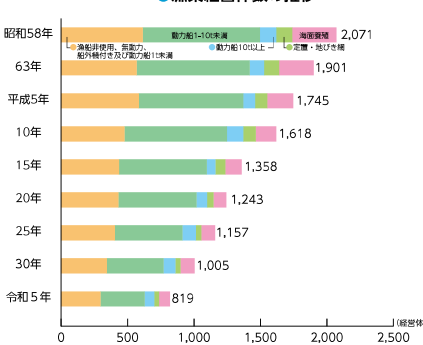
漁業を支える人々

●漁業就業者数の推移



(注)就業者数の20年の年齢構成は、15-29歳、30-39歳に変更(以降、変更なし)。

●漁業経営体数の推移



「2023年漁業センサス」

水産業と福祉の連携の推進について

県は、障がい者等を水産業の担い手に位置付け、福祉部門と連携しながら水産業の担い手を増やし、障がい者等の就労・雇用の機会の確保につなげるとともに、地域共生社会の実現を目指す、水産業と福祉の連携を推進しており、水産業者と福祉事業者等のマッチング成立に向けた支援を行っています。



わかめの乾燥作業



漁具(刺網)のぼらし作業

県内では、これまでに、ひじきのごみ取り・袋詰め・ラベル貼り、わかめの乾燥、漁具（刺網）のばらし、しらす用箱の組立て、水産加工品のパッキングなどの連携事例が生まれています。

漁業を支える漁場、漁港及び漁船

■漁場

<沿岸漁場>

様々な漁業が営まれており、東京湾では、たちうお、まあなご、かれい類など内湾性の魚介類が、また相模湾では、あじ、さば、いわしなどの回遊性の魚類が主に漁獲されています。

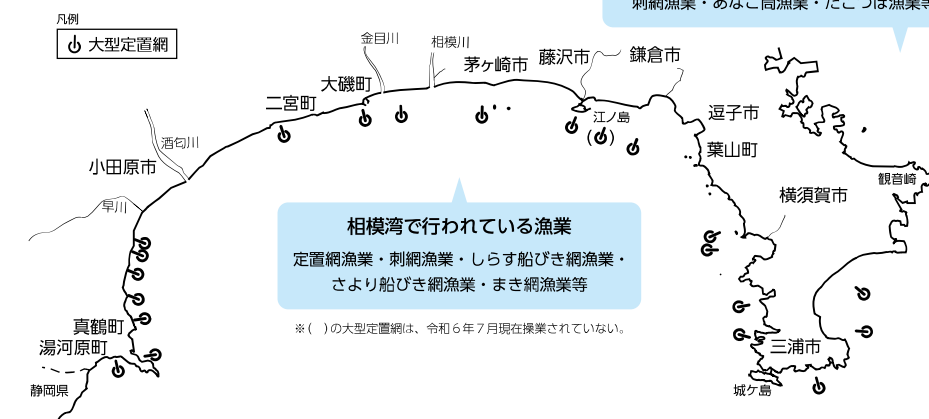
<沖合漁場>

伊豆諸島周辺や四国沖などの海域を主漁場として、きんめだい、むつなどを漁獲しています。

<遠洋漁場>

遠洋まぐろはえ縄は世界の広い海域を、大中型まき網はインド洋や太平洋を漁場として、まぐろなどを漁獲しています。

●沿岸漁業漁場図



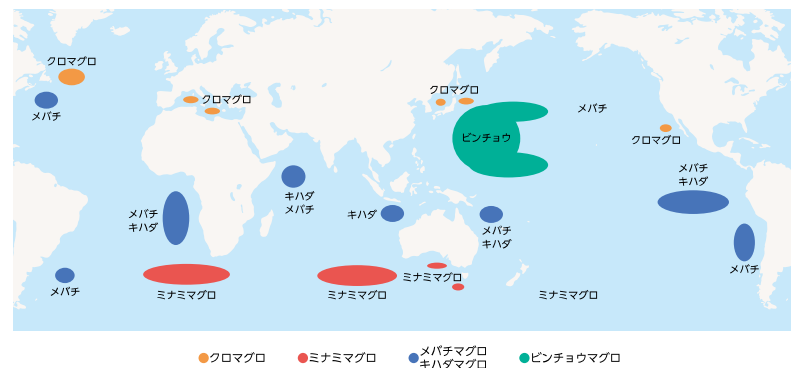
※()の大型定置網は、令和6年7月現在操業されていない。

■主なまぐろ漁場図

まぐろの中で最高級品とされるくろまぐろは北半球の海域に、次いで高級品とされるみなみまぐろは南半球の温帯域に多く生息しています。また、めばち、き

はだ、びんちょう（びんなが）は世界中の海に広く分布しています。

●主なまぐろ漁場図「TUNA QUEEN WEB SITE」



■漁港

県内には第一種漁港から特定第三種漁港まで大小26の漁港があり、漁船の係留や水揚げの場となっています。また、川崎港を除く6港湾にも、漁港同様の機能を備えた区域があり、漁業活動に利用されています。

<第一種漁港>

利用範囲が地元漁業を主とするもの

<第二種漁港>

利用範囲が第一種漁港よりも広く、第三種漁港に属さないもの

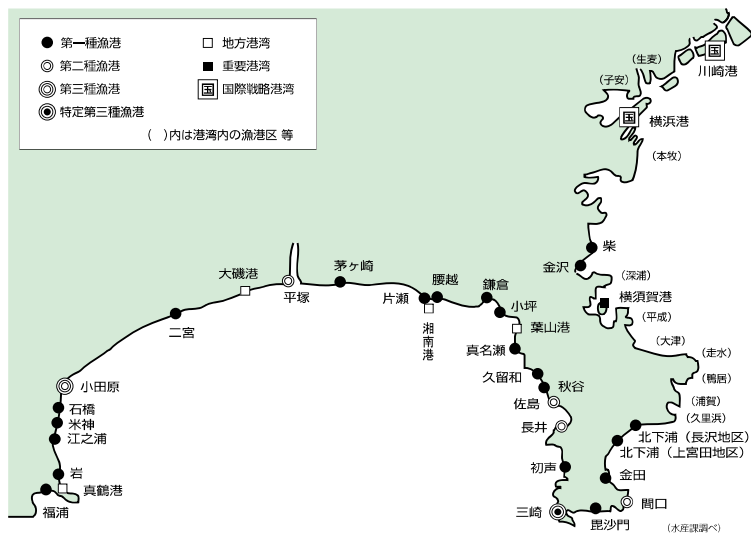
<第三種漁港>

利用範囲が全国的なもの

<特定第三種漁港>

第三種漁港のうち水産産業の振興上特に重要なもの

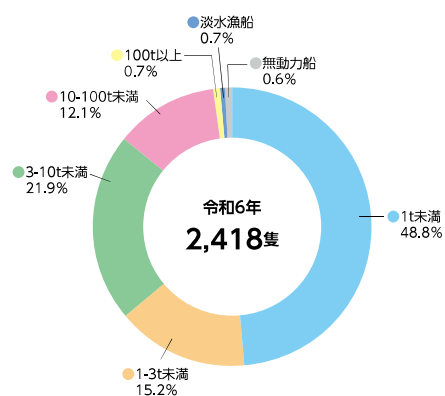
●漁港位置図



■漁船登録隻数

本県の令和6年の漁船登録隻数は2,418隻です。また、登録漁船の85.8%が沿岸漁業に従事する10t未満の小型漁船が占められています。

●登録漁船隻数の構成比



(注) 淡水漁船以外は海水漁船
水産課調べ、令和6年12月末現在



三崎漁港(特定第三種漁港)



小田原漁港(第三種漁港)

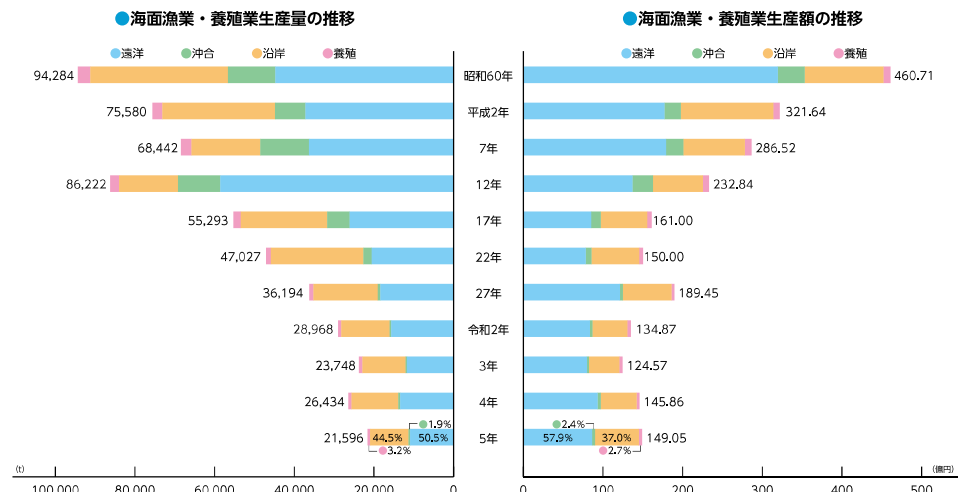
豊かな海の恵み

■海面漁業・養殖業の生産量、生産額の推移

令和5年の本県海面漁業と海面養殖業の生産量は21,596tで、定置網などの沿岸漁業が44.5%、まぐろはえ縄などの遠洋漁業が50.5%、きんめだいのはえ縄などの沖合漁業が1.9%、わかめやのりの生産を主とする

海面養殖業が3.2%を占めています。

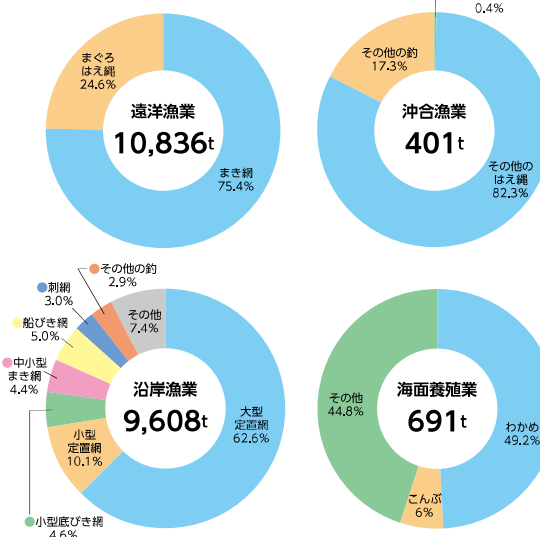
生産額では、149億円のうち、沿岸漁業が37.0%、遠洋漁業が57.9%、沖合漁業が2.4%、海面養殖業が2.7%を占めています。



(注) 19年以降の沿岸、沖合、遠洋別生産量は未公表のため
各業種の操業形態から推定して分類した。

農林水産省「漁業生産統計調査」,「漁業産出額」,水産課調べ
(注) 19年以降の業態別生産額は未公表のため、魚種別生産額をもとに計算した推計値。

●海面漁業・養殖業の生産量構成比(令和5年)



農林水産省「海面漁業生産統計調査」,「漁業産出額」,水産課調べ
(注)「その他」はのり類、貝類で生産量は非公表。なお、「その他」はのり類が主(水産課調べ)。



まぐろの水揚げ風景(三浦市)



みづき漁業®

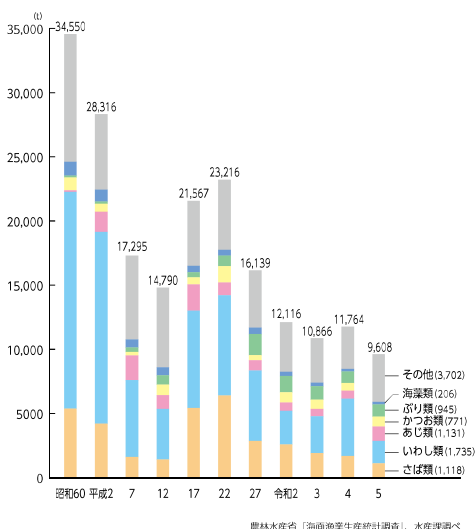
※貝類やいせえび、海藻などをとる漁業で船の上から箱メガネで海中をのぞき、鎌やフックのついた長い竿で漁獲します。

主要魚種別構成

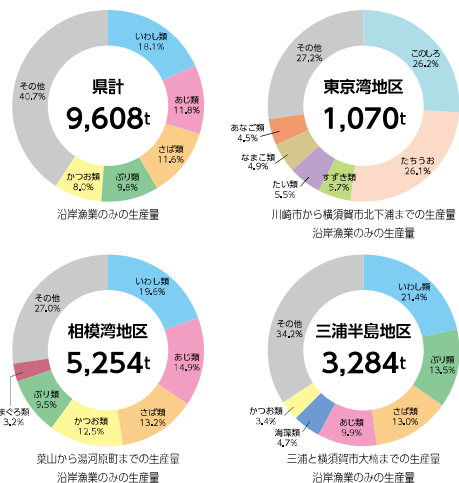
令和5年の沿岸漁業魚種別生産量の第1位は、いわし類で1,735t、次いであじ類1,131t、さば類1,118tの順となっています。地区別にみると、東京湾地区は、小型底びき網やまき網などによるこのしろ、たちうお、

すずき類、三浦半島地区は、まき網や定置網によるいわし類、ぶり類、さば類、相模湾地区では、定置網によるいわし類、あじ類、さば類の生産量が多く、地区ごとに特色ある魚種構成となっています。

沿岸漁業魚種別生産量の推移



沿岸漁業地区別生産量

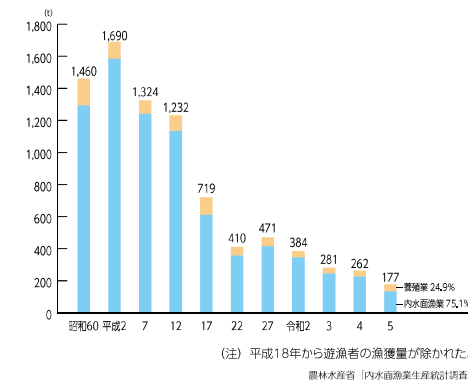


川や湖で行われている淡水魚の採捕や養殖業

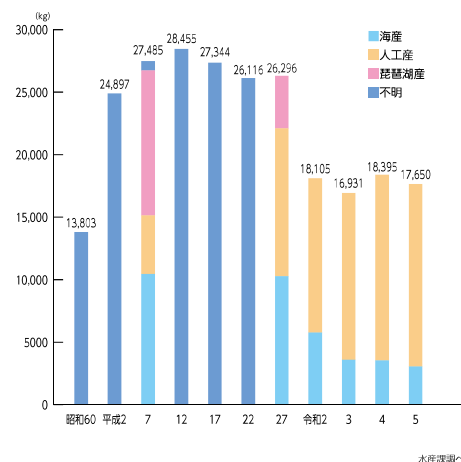
相模川、酒匂川、芦ノ湖などでは、あゆ釣やわかさぎ釣などが行われています。これらの河川・湖沼では、漁業協同組合などが毎年種苗を放流しています。

また、あゆやにじますなどの養殖業も行われています。

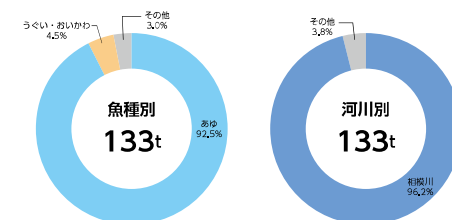
内水面漁業・養殖業生産量の推移



あゆの河川放流実績



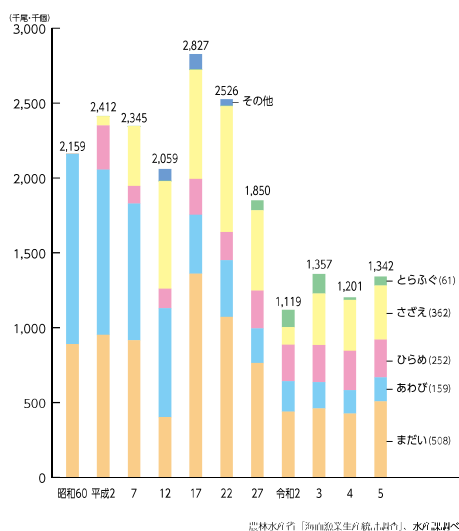
内水面漁業生産量構成比 (令和5年)



つくり育てる漁業、守り育てる漁業

本県では、まだい、ひらめ、とらふぐ、あわび及びさざえなどの人の手によって育てた稚魚等を放流する栽培漁業を進めています。その中でも、まだいは漁業者に加えて、広く遊漁者などからの協力金も得て積極的に事業を進めています。さらに、栽培漁業にとどまらず、広く水産資源を持続的に有効利用するため、資源管理型漁業を推進し、漁業者による自主的な取組も積極的に支援しています。

種苗生産放流・配布実績



さざえ飼育作業



まだい稚魚

「海業」の取組について

「海業」とは、水産業を核として、観光業や飲食業等と連携して海・水産物・漁村などの地域資源を活用する事業のことです。県内においても、漁港における販売施設や飲食店の開設や、漁船を利用したクルージング、漁業体験などの取組が始まっています。

県は、漁業者の所得向上と地域のにぎわいの創出を図るため、漁業者が中心となって民間企業等と連携して取り組む、地域の魅力を活かした海業を推進しています。



漁船クルージング



三崎漁港「うらり」交流広場



小田原漁港「TOTO小田原」